

No. 96

新館紹介

美作市立英田図書館



美作市立英田図書館は、二〇〇四年十月二十八日に英田公民館図書室として生涯学習センターの一階にオープンしました。三月三十一日の合併に伴い、英田町の図書室から美作市の図書館として現在の名称に変わりました。旧英田町は美作市の最南端に位置し、周辺には温泉、宿泊

施設などがある大芦高原や岡山国際サーキットがあります。

生涯学習センターは図書館の他に、歴史民俗資料館、学童保育のスペースを含んでおり、地域住民の方々の社会教育の拠点、そして情報収集や交流の場として作られました。



地域の中心に建てられたことにより、学校から近く、公共交通機関からも便利などころにあるため、遠方からのお客様が歴史民俗資料館に来られたり、小学校の子どもたちが授業の一環で見学会をすることもあります。また、学校帰りの子どもたち

がたくさん寄って本を読んだり勉強したりする姿もよく見かけます。

図書館内は土足禁止になっており、床は絨毯になってるのでくつろいで本を読んでいただけるようになっていいます。館内には本以外にインターネットコーナー、AVコーナーがあり、多くの方々に利用していただいています。特にAVコーナーは今年の五月から利用出来るようになり、子どもたちに大人気です。



図書館内のお話しコーナーで月に二回行われる絵本読み聞かせ会では、地元の見聞かせボランティア「お話ししゃポ」のみな

さんが絵本や紙芝居の読み聞かせをしてくださっており、小さなお子さんやお母さんたちの楽しそうな声が聞こえてきます。

図書館の規模は、蔵書冊数が現在一万六千冊、AV資料は六十二点とスタートしたばかりなのでまだまだ規模は小さいですが、これから徐々に増やしていく予定です。全体の蔵

書冊数は少ないのですが、その中でも児童書は比較的多く、特に紙芝居はお母さんや、読み聞かせボランティアの方々に好評です。これらの新しく入った児童書は吉森文庫とい、子どものために、と吉森二郎様から寄贈されたものです。

利用しやすい図書館を目指してこれまで工夫してきましたが、これからもより多くの人に利用していただけるように、親しみやすい、さらに皆様に愛される図書館づくりに努めていきたいと思っています。

● 利用案内 ●

◇美作市内にお住まいの方、通勤通学されている方、また美作市に隣接している市町村の方なら貸出しできます。

◇貸出し冊数は一人図書・雑誌が五冊まで、AVは三本まで二週間貸出します。(ただし、DVDは館内視聴のみとなります。)

◇休館日は毎週月曜日、第三日曜日、祝日、館内整理日(月末)、年末年始です。変更になることがありますので図書館だよりやホームページでご確認ください。

開館時間は火曜日から土曜日が午前十時から午後八時、日曜日が午後五時までです。

(えんどうえみ)

常設展示紹介①

木山捷平文学コーナー
森田思軒顕彰コーナー

笠岡市立図書館



笠岡市立図書館には「木山捷平文学コーナー」と「森田思軒顕彰コーナー」という文学コーナーを開設しています。「木山捷平文学コーナー」は郷土出身の詩人・作家木山捷平の文学的業績を称え、更に捷平文学を鑑賞してもらうため、ご遺族の協力を得て、昭和六十三年三月に市立図書館内に開設しました。自筆の原稿や色紙、著書、雑誌、写真、愛用品のほか、未発表詩稿などを展示しています。

捷平の詩の特徴は、純朴な田園生活への郷愁、都会をさすらう孤独な

自らへの自嘲や社会の悪に対する憤り、更には庶民の生活の哀歓をユーモアとペーソスをたたえながら、素朴な（むしろ泥くさい）言葉で飄々と歌いあげている点にあります。そこには社会の片隅に生きる弱い、虐げられた人びとへの限りない愛情がにじみ出ています。初期の詩や小説には笠岡弁が随所にでてくるので、特に親しみやすく感じるのかもしれませんが。



この捷平コーナー入り口には捷平の胸像が飾ってあります。昨年、にいやま「文化を楽しみ育てる会」より寄贈していただきました。地域の方たちに今も愛されている「捷平さん」の姿を一度ご覧ください。また、あまり知られていませんが捷平の『尋三の春』は、中国上海の小学校五年生の教科書に『大蔵老子（大蔵

先生）』として採用されています。『尋三の春』は尋常小学校時代の体験を基に、貧富の分け隔てをしない新任教師を描いた小説です。この教科書の展示もしていますので、ご覧になってみてください。その他にも捷平を特集した雑誌などの資料、木山捷平文学賞の歴代受賞者が書いた色紙も展示しています。

「森田思軒顕彰コーナー」は森田思軒の優れた業績をたたえ、さらに後世に伝えるため、平成十二年四月、思軒の子孫に当たる白石家から思軒の遺稿・手紙その他の資料の寄託を受けたのを機に開設しました。思軒のご遺族によって大切に保管されてきた自筆原稿、書簡、愛用品等々を展示しています。空襲による火災や自然災害からも無事だったのは、文字どおり肌身離さず三世代にわたって遺品を守ってこられたご遺族の熱意のたまものです。

森田思軒は明治期翻訳文学の先駆者です。文久元年（一八六一）に笠岡で生まれ、明治三十年（一八九七）に東京・根岸で亡くなりました。思軒は三十六年の短い生涯を新聞記者、翻訳家、批評家、随筆家としてめざましく活躍し、「明治の翻訳王」と呼ばれました。代表作にヴィクトル・ユゴー『死刑前の六時間』

やジュール・ヴェルヌ『十五少年』、エドガー・アラン・ポー『間一髪』があります。特にこれほど多くのヴェルヌ作品を訳した翻訳家はおらず、いまだに現代語訳のない貴重なものもあります。漢文を素養にした文体は「思軒調」といわれ、当時「朗々とすべき妙訳」と評価されました。思軒は幼少の頃から父や大叔父に『西遊記』『三国志』『水滸伝』などを読み聞かせられ、十一歳でこれらを中国原本で読んだそうです。



岡山県内でもご存知の方は多くないと思いますが、翻訳を文学作品にまで高めた先駆者である思軒を一人でも多くの皆さんに知って頂きたいと思います。そのため、命日がある十一月に思軒の功績を広く市民に知っていただけるよう、毎年「森田思軒顕彰講演会」を開いています。一昨年の平成十五年には吉備路文学館において「明治の翻訳王 森田思軒展」も開催していただきました。図書館の中のコーナーではありません。

すが、木山捷平、森田思軒の業績の全体像や交流のあった人びとの姿を明らかにする貴重な遺品が展示してあります。最近では、遠く九州から問い合わせもいただきました。

お近くにお寄りの際は、「木山捷平文学コーナー」と「森田思軒顕彰コーナー」に、ぜひお越しください。

● 利用案内 ●

開館時間 平日 午前九時三十分

土日 午前九時三十分

午後七時

午後六時

休館日 毎週月曜日

月曜日

国民の祝日（月曜日に当るときはその日と翌日）
（はらだやすえ）

常設展示紹介②

江坂コレクションとは？

建部町立図書館

「行こうか岡山、戻ろうか津山、ここが思案の深渡し（福渡）」と古くからうたわれてきた建部町は、岡山県の中心部に位置し、車で国道五十三号を岡山から北上・津山から南下すること三十分程で着きます。赤い鉄塔が目印の旧NNT福渡支店の

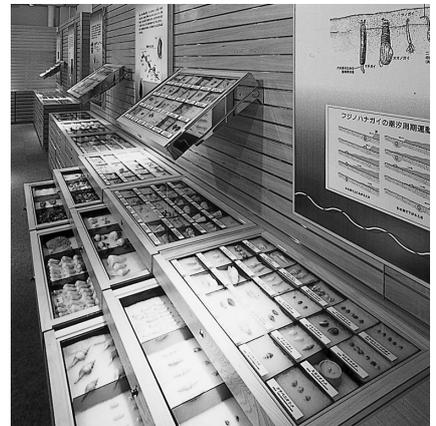
一階部分に、建部町立図書館「たけるべ」があり、この図書館の複合施設として「江坂コレクション展示館」は、小さいながら、貝と化石と考古資料を常設展示している資料館（博物館）です。



ここには、郷土の博物学者・江坂進氏（一九〇五～一九七七）が昭和十四年から二十年間にわたり採取・発掘した貝類約六百種類一万三千点、化石類約五十種類七百点、考古資料六十五遺跡約四千五百点の中から展示しています。

中でも貝類は、全長三十cmを越えるホラ貝や一cmほどの巻き貝、桜色のアカガイ、漢字の「水」という字のように見えるスジガイ等ガラス張りの標本ケースはまるで寶石箱のようです。

また、小学校低学年にも理解できるように貝の生態等図式パネルにして説明がしてあります。



展示してある資料が単品として珍しいとか貴重というより、沖繩から紀伊半島にかけての「黒潮ライン」に生息する貝を現地で直接採取することに情熱を傾け、特定の種を選ぶのではなく、生きている貝ならとにかく拾い集め、みそ汁の具になりそうなアサリやシジミなどもあります。それら一点一点に学名及び和名、採取年月日や地名などが詳しく記録されており、現在では貝が採取できない、水島コンビナートや児島湖付近など、埋め立てられたり淡水化された場所で見つけた貝も多くあります。高知県土佐市沖で採取した「ベニオキナエビスガイ」のように、収集家から「生きた化石」と呼ばれている学術的にも極めて貴重な種もあります。

貝は古くから人間の生活に深い関わりがあります。身は貴重な蛋白源

として食用にされ、殻はホラ貝や基石、貝合わせ、ボタン等通信手段や娯楽や生活道具として利用されてきました。また貝塚は、古代人の食生活や住居を知る貴重な手がかりともなります。それに化石のアンモナイトは子どもから大人まで幅広く知られ、特に人気があります。そのアンモナイトが実は、イカやタコと同じ軟体動物の仲間だと聞くとちよつと意外に思うかもしれません。

こんな身近な貝や化石が海に縁の無い建部町で見られるのも驚きです。



考古資料に関しては、町内出土を中心に、弥生・古墳・古代の資料を展示しています。なかでも御津町宇垣原遺跡出土の縄文晩期及び弥生後期の壺・碗・高杯・石鏃・石器類やガラス小玉等の一括資料は有名です。さらにこの展示室は、特別な仕掛けにより、絵画展や盆栽展など、町民の多目的ギャラリーとして活用でき



るよう工夫されていて、町民の発表の場として重宝がられています。
建部町は、環境学習にも重点をおき、図書館としても資料等において特色ある品揃えを心がけていますので、是非ともご来館お待ちしております。

● **利用案内** ●

開館時間 午前九時十五分から午後六時
休館日 毎週月曜日(祝日は除く)
祝日の翌日(土曜・日曜・祝日は除く)
年末年始(十二月二十八日～一月四日)
入館料 無料
(きむらよしえ)

「岡山県大学図書館員研修会」のススメ

本会は、岡山県の大学図書館員を主体とした、有志一同による研修会です。

いかなる上部組織も持たない個人単位の研修会として、一九八二年に発足しました。

発足以来、「会員相互の理解と協力を促進し、大学図書館の発展に寄与する事」を目的として、各種勉強会や講演会・会報発行などの活動を行ってきております。

本研修会の活動などについて、詳細はホームページをご参照下さい。
(<http://projectx.f2web.com/>)

…と、「使い回しができてとって便利な研修会の紹介文」をコピー&ペーストしてみました。

「要点を簡潔にまとめてあるのに、ぜんぜん印象に残らない」というのがこの文章のすごいところです。いや、ほんとうに。

しかし今回、「岡山のとしよかん」紙上に紹介する場をいただきましたので、もっと具体的な紹介を。ドドン!としちゃいましょう。サヨウナラ「ですます口調」♪

① **会員は五十人くらいだよ。**
平成十七年四月一日の時点で四十七人。そのうち、岡山県内の大学図

書館に勤務している図書館員が六割強。あとは元図書館員の方や、病院図書室勤務の方、県外の大学図書館員の方もいるよ。今のところ公共図書館勤務の方はいないのだけれど、館種や所属を問わず、入会は大歓迎なので。ほら。さあ。ぱっちりこい!



総会で活動について話し合う

② **勉強会でじっくり勉強しているよ。**

「小グループ勉強会」と言って、五十人くらいのグループでテーマを決めて勉強会をやったりしているよ。昨年度は「OPAC」「蔵書構成」の二テーマについて開催し、意見交換を行ったり、グループ内で発表したりしたよ。もちろん今年度も開催するよ。

③ **見学会でじっくり研修しているよ。**



今春の図書館見学企画

県内県外を問わず、あちこちの図書館に見学に行っているよ。もちろん昨年度は岡山県立図書館に見学に行ったよ。見学に行つてはレポートや感想を会報(⑥参照)に掲載しているよ。図書館員よりも図書館見学が好きな人々がいるだろうか(反語)。

④ **懇親会でじっくり交流しているよ。**

忘年会・お茶会は当たり前。地中美術館がオープンしたばかりの直島へ研修旅行に行ったり、「ドキッ!天秤座だらけの卓球大会」を開催したり…。とはいえ「何だ、ただのお楽しみサークルじゃないか」という指摘は間違っているよ。たぶん。たぶんね。



昨秋の直島研修旅行

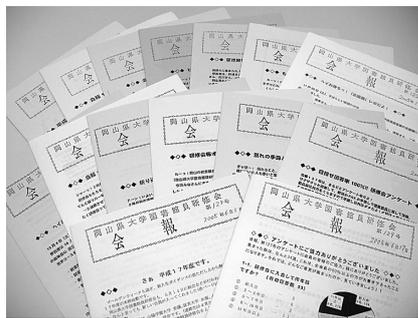
⑤「個人単位」「独立団体」というのがポイントだよ。

個人単位で参加しているので、参加のスタンスが自由なのがポイントだよ。自分からガンガン企画を立てることもできるし、「会報だけ読みたい」「Webでのやりとりだけ参加したい」というスタンスだってアリ。「年*回研究会をやりなさい」という制約もなく、運営は自分たちで決めていける。一番の特徴はココじゃないかしらん。

⑥会報でーれー面白えがー。

…って、にのみや(筆者)は関西出身なので「会報めっちゃオモロイっちゃうねん」って言うけれど。この原稿のようなフランクな(便利

な言葉だわ!)原稿もあれば、図書館員の専門性を論じたり、公共図書館との連携の可能性を探るレポートもあり。はつきり言って、かなり面白いよ。会報のサンプルが見たい方は、今すぐのみにやまで連絡を。連絡先はホームページを見よう。

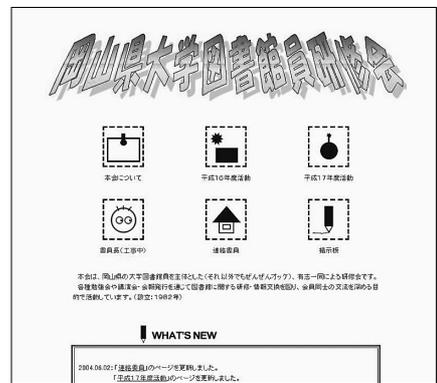


ほぼ月刊の研修会会報

⑦ <http://project.fc2web.com/>

「うわーっ!URLを項目名にする人初めて見た!」というリアクションを取っていたけると幸甚。あるいは思うツボ。ええと、ホームページを公開して、現在の研修活動や今後の予定の情報提供をしているよ。あと掲示板を設置して、会員同士の交流や恋愛相談もやっているよ。ちなみに、大学図書館界で一瞬だけブレイク(開設十日で一萬アクセス!)した「だいがくとしょかん占い」(<http://u-maker.com/71392>。html)へのリンクもこちら。

html)へのリンクもこちら。



すっきりしたデザインのホームページ

ーいかがでしょう?なかなか興味深いですよ。そうですね。

前述した通り、本会は大学図書館員を主体として構成されていますが、それ以外の方も多く入会しています。興味をお持ちの方は、いつでもご連絡下さい。お待ちしております。(にのみやつとむ)

岡山県図書館協会活動報告

新会員紹介

- 佐々木啓文 (岡山県立図書館)
- 榎村 文彦 (岡山県立図書館)
- 内池 英樹 (岡山県立図書館)
- 加茂清太郎 (岡山県立図書館)
- 萩野 美幸 (岡山県立図書館)
- 杉野 築 (岡山市立中央図書館)
- 井上亜由美 (岡山市立中央図書館)
- 平松 知子 (岡山市立幸町図書館)

藤本 亜夫 (岡山市立御津図書館)

- 杉山 雄史 (津山市立図書館)
- 高井 昭彦 (津山市立図書館)
- 田中ゆかり (津山市立図書館)
- 仲井 寛明 (津山市立図書館)
- 青木知恵子 (玉野市立図書館)
- 渡辺 良信 (井原市井原図書館)
- 關藤 宜子 (井原市井原図書館)
- 小原 孝 (総社市図書館)
- 井口真由美 (総社市図書館)
- 小林 建夫 (備前市立図書館)
- 下山 晃 (備前市立図書館)
- 中田 直紀 (備前市立図書館日生分館)
- 松山 忠義 (備前市立図書館吉永分館)
- 牧本 明 (鏡野町立図書館)
- 中島 栄 (真備町立図書館)
- 安藤由希子 (真備町立図書館)
- 神原 芳恵 (真備町立図書館)
- 金光 和道 (金光図書館)
- 脇阪有可里 (岡山学院大学・岡山短期大学図書館)
- 長谷川智恵 (くらしき作陽大学附属図書館)
- 石原恵以子 (岡山市立大宮小学校)
- 岩藤 統彦

企画委員会報告

異動による委員の補充で次の方が会長より委嘱されました。任期は平成十八年四月末日までです。結石 麻里↓禾本 美紀 (美咲町立柵原図書館)

第一回は四月十九日に開催され、今年度の研修会・講習会の内容を話し合いました。次回は九月中に開催し、十一月と三月に発行予定の会報の内容などについて話し合う予定です。

定期総会報告

平成十七年度定期総会は五月二十三日に開催されました。主な決定事項をご報告いたします。

●平成十七・十八年度役員

参与

鍋島 豊 (岡山県教育庁生涯学習課)

会長

松井 英治 (岡山県立図書館)

副会長

古南 倫子 (岡山市立中央図書館)

渡部 秀人 (早島町立図書館)

大崎 紘一 (岡山大学附属図書館)

理事

笠原 昭則 (倉敷市立中央図書館)

清水 厚子 (津山市立図書館)

小原 孝 (総社市図書館)

福意 昭教 (新見市立新見図書館)

大森 満 (赤磐市立中央図書館)

牧本 明 (鏡野町立図書館)

金光 和道 (金光図書館)

平野 豊 (岡山学院大学・岡山短期大学図書館)

池田 敏弘 (岡山商工会議所)

田井郁久雄 (日本図書館協会評議員)

永井 悦重 (日本図書館協会評議員)
原田 聖子 (岡山県青年図書館員研修会委員長)

佐々木啓文 (岡山県立図書館)

監事

小林 建夫 (備前市立図書館)

中村みき江 (美咲町立柵原図書館)

●平成十七年度図書館功労者表彰

次の方々が表彰されました。おめでとございます。

安達 俣子 様

岡崎 美由紀 様

長瀬 幸子 様 (岡山市立高島中学校)

藤田 みどり 様 (岡山市立福浜中学校)

松井 麗子 様 (倉敷市立中央図書館)

三宅 織絵 様 (倉敷市立短期大学附属図書館)

矢吹 礼子 様 (倉敷市立玉島図書館)

なお、昨年十一月二十一日にご逝去された黒崎義博氏に、当協会より生前の永年の御功績に対して、感謝状を贈らせていただきます。

●平成十七年度事業計画

☆読書活動推進
一日こども図書館フェスティバルを共催します。今年度は吉備中央町口マン高原かよう総合会館で十一月二

十三日勤労感謝の日に開催されます。☆刊行
会員名簿を希望者に配付します。また、会報「岡山のとしよかん」を年3回発行します。

☆平成十七年度研修会・講習会
六月二十三日図書館業務講習会

「新しい図書館員のために」
会場 岡山県立図書館

講師 菱川 廣光氏
(岡山県立図書館総括参事)

八月二十四日整理技術講習会
会場 津山市立図書館

講師 大村 文誉氏
(岡山県立図書館)

十月頃 東根 さやか氏
(県立倉敷中央高等学校)

十二月頃 図書館業務研修会
郷土に関するテーマ
会場 岡山県立図書館

二月頃 製本講習会
会場 岡山県立図書館

●施設会費について

市町村合併により「町立→市立」「公民館→図書館」等の変更が相次ぎましたが、それに伴うランクの変更は行わず、平成十八年度までは従来どおりの金額をお支払いいただくことになりました。十九年度以降については、今後理事会等で検討させていただきます。

●第九十二回全国図書館大会

◇編集後記◇

平成十八年度第九十二回大会は、岡山県で開催し、全国から図書館関係者をお迎えすることになりました。日程は七月十四日の準備委員会で、十月二十六日(木)～二十七日(金)の二日間に決定しました。当協会は主催者団体となっておりますので御協力お願いします。なお、今年度は十月二十六日(水)～二十八日(金)に、茨城県で開催されます。

今年度から事務局を担当いたします。す加茂です。よろしくお願ひします。突然のお願いにもかかわらず原稿の執筆に御協力をいただいた方々には大変お世話になり、ありがとうございます。せっかくの夏休みですので、休館日に留意した上で、紹介した図書館をぜひ訪れていただければと思います。なお、この紙面上に紹介したい展示などがありましたらお知らせいただけると幸いです。

平成十七年七月三十一日
〒七〇〇一〇八二三
岡山市丸の内二一六一三〇
岡山県立図書館
メディア・協力課 図書館協力班内
岡山県図書館協会
会長 松井 英治
(〇八六)一三四一―二六九